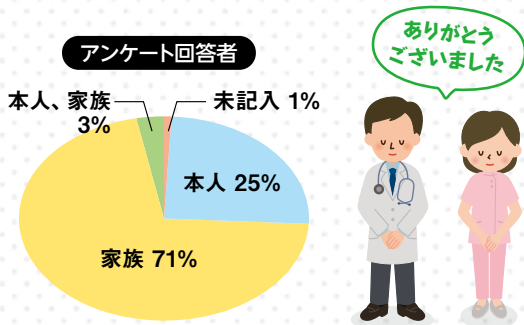


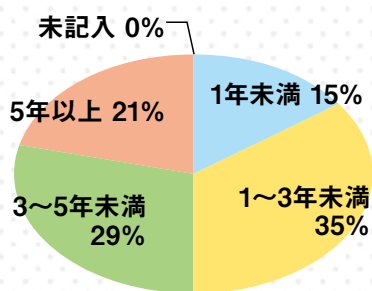
令和元年度 居宅介護支援事業所 利用者満足度調査

本年度も満足度調査にご協力頂き、ありがとうございました。結果をまとめましたので報告させていただきます。

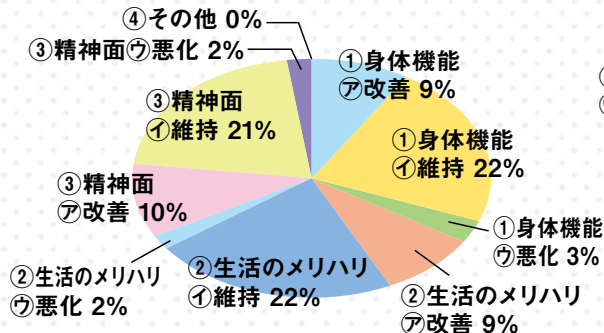
アンケート配布期間：令和元年8月～9月 [配布]94件 [回収]80件 (回収率：85%)



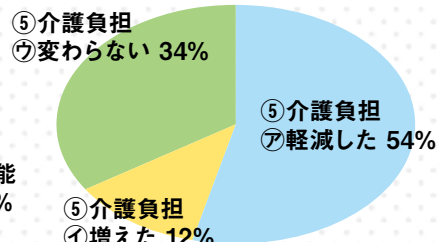
①介護サービス開始から何年になられますか



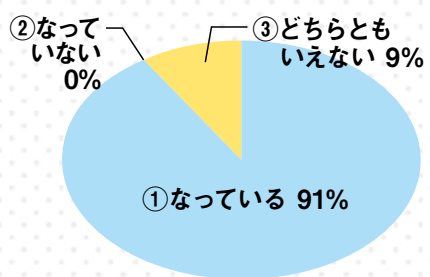
②介護サービスを利用し始めてご本人、ご家族の生活に変化がありましたか(本人)



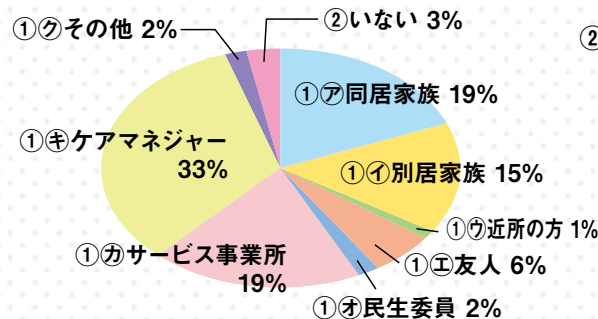
③介護サービスを利用し始めてご本人、ご家族の生活に変化がありましたか【家族】



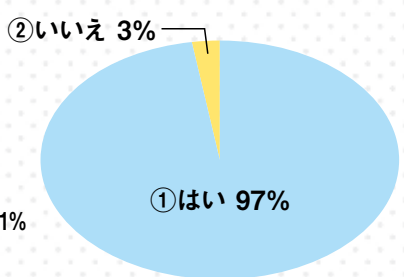
④私たちが作成する「居宅サービス計画書」は、在宅生活の継続を可能にする支援内容になっていますか



⑤介護の相談や、介護支援の協力を得られる方がおられますか



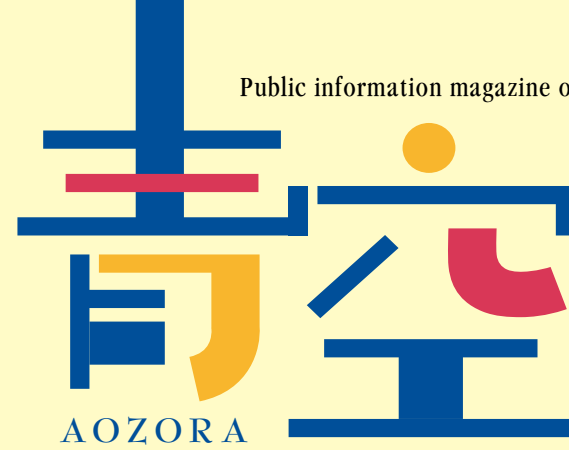
⑥ケアマネジャーはご本人、ご家族の思いを十分に聞いて「希望する生活」に導いていますか



当事業所では、ご本人ご家族の意向を伺い、またサービス事業所や専門家の意見も参考にしながら、ご希望される生活が実現できるよう相談、検討の機会を設けております。

介護保険法では、要介護状態等になられた方が「尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むこと」とあるように、ご本人の自立支援を目的とされています。今回のアンケートでは、「在宅生活の継続を可能にする支援内容になっていますか」では「なっている」、「ケアマネジャーはご本人、ご家族の思いを十分に聞いて希望される生活に導いていますか」の問いには多くの方から「はい」と回答を頂きました。

今年度は、「生活に変化がありましたか」について、より詳細に伺いました。結果から、ご本人については身体機能・生活のメリハリ、精神面でも「維持」と回答された方が多く、ご家族では約半数強の方から「介護負担が軽減した」との回答を頂きました。私達は、ご本人が自宅での生活が継続でき、ご家族の介護負担が軽減できるように望んでいます。今後も、ご本人が自己決定できるようにわかりやすく説明し、必要な情報提供を行い、ご本人・ご家族が安心し望む暮らしができるよう、事業内容や制度についてご理解いただき、情報提供する技術や思いを引き出す技術を研鑽して参ります。



やさしい心で
良質な医療を



医師紹介



「メディカルスタッフのパワーアップと地域医療の存続を願って思う事」

JA吉田総合病院 内科医師 主任部長 石飛 朋和

平成28年、サンフレッチェのマザータウンということもあり、吉田への異動のお話に二つ返事で赴任して、4年目になりました。それまで私は、消化器内科、主に肝胆膵診療を中心に勉強してきました。赴任前、当院では肝胆膵診療は安佐市民病院や三次中央病院へ紹介受診していただくことも多かったと思いますが、この3年余りで、当院で可能な検査治療を増やせてきたかなとは思っております(消化管(食道・胃・十二指腸・大腸))

は、影本医師を中心として頑張っております。



世の中の医療事情に即していかないといけない所もあるかと思っています。各規模の病院・医院・施設なども、それぞれの役割分担があります。大病院だからできること、逆に当院だからできること、医院だからできること、施設だからできること、等々ありますので、患者様・ご家族と一緒に、どうするのがよいのか

ケースバイケースで考えていかないといけないのだと思います。

ところで私は現在も広島市内から往復約3時間程度のハードな通勤を続けております。吉田への通勤手段は自家用車以外不便です。また昨年豪雨災害もあり、もし通院困難地域があれば、往診車の提案をと思っていましたが、通勤には影響がありました。運転には、体調・メンタル・怪我のみならず、車の状態や交通事情も影響します。週1を超えるペースの日直、当直は、睡眠時間が減り、体調、メンタルに響きます。とりあえずのところ自動運転が早く稼働するのいいなと思っています。

当院は現在、約6万人の医療圏の唯一の総合病院です。人口減少とはいえ高齢化もありますし、肝胆膵疾患も増え、患者様には待ち時

間の増加など、至らない所もあるかと思っています。対策として、各医院との併診もあります。しかし、サンフレッチェも、森崎兄弟の引退・監督交代などあるように、時は流れていきますので、私も含め医師も毎年歳をとります。そこで、赴任した時から何とかメディカルスタッフのパワーアップができないかと考えておりました。その対策として考えていた、地域のメディカルスタッフ向けの勉強講演会を令和元年度ようやくスタート出来ました。肝疾患コーディネーター(当院でも今年1人誕生)や、糖尿病療養指導士等々の仕組みも活用していけたらと思っています。



安芸高田の医療が存続しますよう、気力体力と相談しながらですが、微力ながら貢献できればと思っています。



INFORMATION お知らせ

募集!! JA吉田総合病院は「院内ボランティア募集中」です。ご連絡をお待ちしています。
お問合せ:JA吉田総合病院地域医療連携室 電話 0826-42-0669

基本理念

1. 私たちは何人にも平等に医療を提供します。
2. 私たちは地域の基幹病院として最良の医療を提供します。
3. 私たちは納得と同意のもとに信頼される医療を提供します。

第5回

市民公開講座

テーマ「最期まで“笑顔”で生き抜く
～ともに暮らそう住み慣れたこのまちで～」

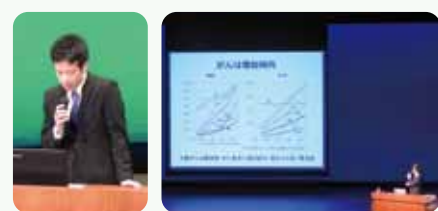
去る11月16日(土)安芸高田市民文化センターにおいて、「最後まで笑顔で生き抜く～ともに暮らそう住み慣れたこのまちで～」をテーマに市民公開講座を開催しました。

この講座は安芸高田市在宅医療・介護連携推進事業として安芸高田市・芸北地域保健対策協議会の共催で安芸高田市医師会他18団体のご後援を頂き、当日は220名余りの方々がご参加されました。

JA吉田総合病院の科長会の「そよかぜコーラス」のオープニングに続き、住元病院長・浜田市長の挨拶と続きました。



その後、市民の皆さんに医療について理解や知識を深めていただくために、JA吉田総合病院 外科 望月哲矢医師より「がんに対する最適な治療について」、内科 森元 晋医師より「胃がん・大腸がん健診のすすめ」と題し、講演を行いました。2人に1人が“がん”になるといわれる現在において、市民の皆さんが知識や



情報を得ることで最適な治療に結びつき、参考にさせていただければと思います。

毎年、楽しみにして下さる方もいらっしゃる、地域の医療・保健・福祉関係者でつくる「劇団☆安芸高田」の寸劇では、架空のケーブルテレビの情報番組や亡くなった故人からのメッセージなどを通して、安芸高家の家族が、終活やエンディングノートなどについて考える内容でした。少しでも市民のみなさんが安芸高一家をとおして、自分ごととして考えていただくきっかけや機会になればと思い、皆で創りあげています。

その後、『将来に向けて



の心がまえ」と題して北広島町雄鹿原診療所所長 東條環樹氏による特別講演がありました。

東條先生は平成18年から北広島町雄鹿原診療所に赴任され、地域に寄り添い、地域医療に貢献されてきました。平成26年には地域医療に貢献した医師を対象とした“第一回やぶ医者大賞”、平成27年には“へき地医療貢献者表彰”を受賞されています。地域医療に従事・貢献されてきた東條先生より、今まで診てこられた患者さんとのエピソードなどふまえ、これからの将来(最期の時、死)について、看取りの文化の普及や市民の皆さんが知っておいたらいいこと、心構えについて、地域で取組んでこられたことについて講演いただきました。



閉会後のアンケートでは「東條先生のお話はユーモアがあって、本当に役立つ話で感動しました」「東條先生には感激した。いままで、漠然とした気持ちで生きてきたが、今後の事について私も本気で考えないといけないと思った」「将来について家族と考えるきっかけとなった」など、自分や家族の死や将来について考える機会となったとのお声を多数いただきました。

今回で5回目となった市民公開講座ですが、アンケートでも「毎年楽しみに参加している」「このテーマでこれからも続けてもらいたい」など聴講された皆さまからの温かいお言葉を頂きました。ご参加・ご協力頂きました多くの方々に厚くお礼を申し上げます。

地域の基幹病院として、地域の皆さまに貢献し、共に取り組む活動を今後も継続していけたらと思っています。今後ともよろしくお祈りします。

令和元年度 安芸高田市在宅医療・介護連携推進事業

令和元年度 第3回 ミニ市民公開講座

テーマ：「“家族からのメッセージ”
～認知症とともに～」 日時 令和2年1月30日(木) 18:30～ 参加者 56名



令和2年1月30日(木)18時30分より「第3回ミニ市民公開講座」を開催し、56名の市民の方々に参加して頂きました。

“ミニ市民公開講座”は、市民の皆さまが住み慣れた地域で自分らしい生活を維持できるよう、今後の地域生活に役立てていただく学びの機会を目的として定期的に開催しています。

この度「認知症」をテーマに認知症の母親を介護された経験と、介護する家族の想いを安芸高田市医師会居宅介護支援事業所でケアマネジャーとして従事されている小野祥津紀さんにお話頂きました。コーディネーターを当院の認知症看護認定看護師 川上香奈さんが



行い、家族としての想いや皆さんへ伝えたいことをお話してもらいました。認知症の方の介護を

する家族が抱える辛さの一つに「先が見えていないこと」が挙げられます。

これからどうなるのか、暗がりを手探りで歩いているような気持ちになるご家族も多いことと思います。働きながら実母の介護をされ、家族としての立場からのメッセージとして“何より早く発見し、適切な治療・適切な対応への助言を受ける事が大切”“地域や周りの人は介護している人を責めないで”など、経験の中から、地域の皆さんへ伝えていきたい熱いメッセージを沢山話して下さいました。明るく笑顔で過ごすための家庭の中の様々な工夫も教えて下さり、参加された市民の皆さまより「大変参考になった」「今、認知症の家族を介護していて先が見えなくて不安だったが、この研修を受けて気分が軽くなった」と感想をいただきました。「もっとこのような想いを皆で共有したい」とのご意見もいただきましたので、今後の企画にも反映していければと思っています。

ご参加いただいた市民の皆様、ありがとうございました。



第48回 院内学会

日時/令和2年2月13日(木)17:30～ 場所/南館4階 大会議室



演題

- | | |
|----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| <p>1. 当院における不眠時指示薬の現状調査と適正使用に向けた取り組み
薬剤科 古閑 恵梨奈</p> | <p>4. フットケア活動日での活動状況と今後の課題
3階病棟 徳本 美由紀</p> |
| <p>2. 医療療養病棟におけるその人らしい生活を支えるケア～外気浴をとりいれて～
5階病棟 草田 猛</p> | <p>5. 人工肛門造設患者への看護について
4階病棟 原田 美優</p> |
| <p>3. 精神科医療の動向に合わせた吉田総合病院精神科の役割～歴史を振り返りながら～
7-2病棟 滑 友紀</p> | <p>6. 舌咬傷、開口障害から診断に至った高齢発症の破傷風の1例
内科 鳥井 宏彰</p> |

第48回目を迎えた院内学会は、医療・介護の質の向上を目指し、日頃の研究成果や業務改善等発表し、情報共有しています。近隣の関係機関とも意見交換ができる、またとない機会となっています。

